

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 23～25 年度)

実施機関：福岡大学（総括責任者：衛藤 卓也）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

研究活動支援室（室長：研究推進部長）を置き、次世代女性生命科学研究所と連携し、次の3点を軸に事業を推進する。

- ① 女性研究員研究活動支援
相談体制の確立、研究支援者の配置等
- ② 意識啓発・広報活動
女性研究員育成を目指したセミナー等の開催
- ③ 研究推進活動
熟練研究者による研究指導等

(2) 研究を支援する者の配置計画

研究支援者として、平成23年度6人、平成24、25年度は各7人、延べ20人の研究支援者を配置する。

本学が推進する当事業は、女性研究員の研究実績を向上させる支援であるとともに、ライフイベントの期間に研究を補助した研究支援者のキャリアアップも指向する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	a	b	b	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

次世代女性生命科学研究所を初期拠点とし、年度毎に参画する理系女性研究者（マザーボード、シスターボード、ファミリーボード）を拡大させ、理系次世代女性研究者プラットフォームを構築し、プラットフォームを中心に両立支援のための環境整備や意識改革を進めるとともに、参画する女性研究者による研究チームを形成することにより、女性研究者の研究力の向上に努めたことは評価できる。その結果、女性研究者のうち、十分な研究力を備え競争的資金等を獲得して自立的に研究に取り組むことのできる特定女性研究員の割合が上昇し、特定男性研究員の割合と同等まで引き上げられた。今後は、女性教員割合の低い理学・工学系分野において、女性教員、特に准教授以上の上位職階の女性教員を増加させることを期待する。

- ・ **目標達成度**：理系次世代女性研究者プラットフォームの構築により、女性研究者のうち十分な

研究力を備え競争的資金等を獲得して自立的に研究に取り組むことのできる特定女性研究員の割合が上昇し、特定男性研究員の割合と同等まで引き上げられ、所期の目標を達成したことは評価できる。

・**取組**：次世代女性生命科学研究所を拠点とし、理系次世代女性研究者プラットフォームを構築し、女性研究者のニーズに柔軟に対応しながら研究支援体制や相談体制を整えたことは評価できる。今後は、医学・薬学系部局における取組の成果を機関全体へ展開することを期待する。

・**取組の成果（システム改革）**：理系次世代女性研究者プラットフォームの構築を通して、女性研究者の内、十分な研究力を備えた特定女性研究員が増加するなど、女性研究者の研究力向上に係る取組の成果があったことは評価できる。しかしながら、女性教員割合の低い理学・工学系分野における女性教員の増加は微増に留まっており、優れた女性教員の採用を積極的に図る機関全体としての取組が見えない。今後は、実効性の高いポジティブ・アクションの策定を強く望む。

・**実施体制**：男女共同参画推進委員会、次世代研究者支援室を設置するとともに、次世代女性生命科学研究所を拠点とし、理系次世代女性研究者プラットフォームを構築し取組を進めたことは評価できる。しかしながら、部局間の連携が十分とは言えないことから、今後は医学・薬学系部局における取組の成果を機関全体へ広く展開し、女性研究者支援に取り組むことを強く望む。

・**実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：自主経費により予算を確保し、男女共同参画推進委員会や次世代女性研究者活動支援室を継続して設置し取組を進めるとともに、人文・社会科学系学部への取組の拡充を計画していることは評価できる。今後は、実効性の高いポジティブ・アクションを策定し、機関全体として優れた上位職階女性教員の採用を積極的に図ることを期待する。